

super Mercedes

special
cars
MERCEDES-BENZ EXCLUSIVE MAGAZINE

Vol.3 モーターファン別冊
980yen

スーパー・メルセデス

オーバー600ps時代到来!

特集:AMG

612馬力でデビュー!

CL65AMG

AMG 2003モデル全車徹底試乗

CLK55AMG/E55AMG

C32AMG/SL55AMG

S55AMG/CL55AMG

チューニングショー

BRABUS 640馬力!
妖艶なるCLKカブリオレ
SLKファイナル

「S」新旧完全保存版

Lovely W140

ぶっちゃけ謳歌するSクラス

バイヤーズガイド/メンテナンス/スペシャルモデル

ニューSクラス詳密カタログ

Invincible W220

Set Up講座

W123/W210Wagon/R129

W140/W210/W201/W124wagon

BRABUS/AMG/W124

独占試乗!

マイバッハ VS
ロールスロイス・ファントム

Flash Japan 三連発!!

A_R_T SL500

GROSSER WALD W215

AUTO COUTURE R129

アメリカからの刺客

RENNTECH SL55K



ヤの組合せ
は、オリジナ
イールとタイ
ヤの組合せ
して大きなホ
ボーグ、時と
げられた10ス
リムが磨き上
い部分はホイ
ール。19イン
チのアウター
とも注目した
前号でもお伝えしたように、レンテックはアメリカを中心とし、AMGを過激にチューニングすることで成功を遂げたが、社長のヘルムート・フェイトは70年代、AMGでメカニックとして貴重な経験を積み重ね、その後アメリカAMGビジネスに大きく携わった人物だといつても過言ではないのだ。

その創業者であるヘルムート・フェイトは、「レンテックは、まだまだ中小企業です。しかし、我々はボリュームを拡張してビジネスを拡大するより顧客により良い価格で製品を提供することに重点を置いています。また、私は多くの販売ディーラーと信頼関係を結ぶ必要があると思っています。さらに、意匠を凝らしたショールームやスポーツカー企業を複数で運営しているわけではなく、チーフとしてのイメージ、そして十分な財政的余裕こそが重要であるのです。本当に重要なことはチューナーが顧客、良い技術的バックアップに対する正しい姿勢を持つており、よくアフターマーケットを知ることです」と彼はアメリカに置けるレンテックの位置づけを語る。

そしてレンテックの最新作が、今回紹介するレンテックSL55Kだ。もう

風のセンセーション!

フロリダを中心として活発的にメルセデス・チューナーの地位を築いたレンテック。あくまでもエクステリアは貴婦人が乗ってもびったり似合いそうな大人の雰囲気を醸す。その反面、アクセルをいっきに踏み込むと無限大の加速フィールを味わうことができるモンスターマシンだ。

Ian Kualah Photo & Report Special Cars Text



RENNTECH SL55K





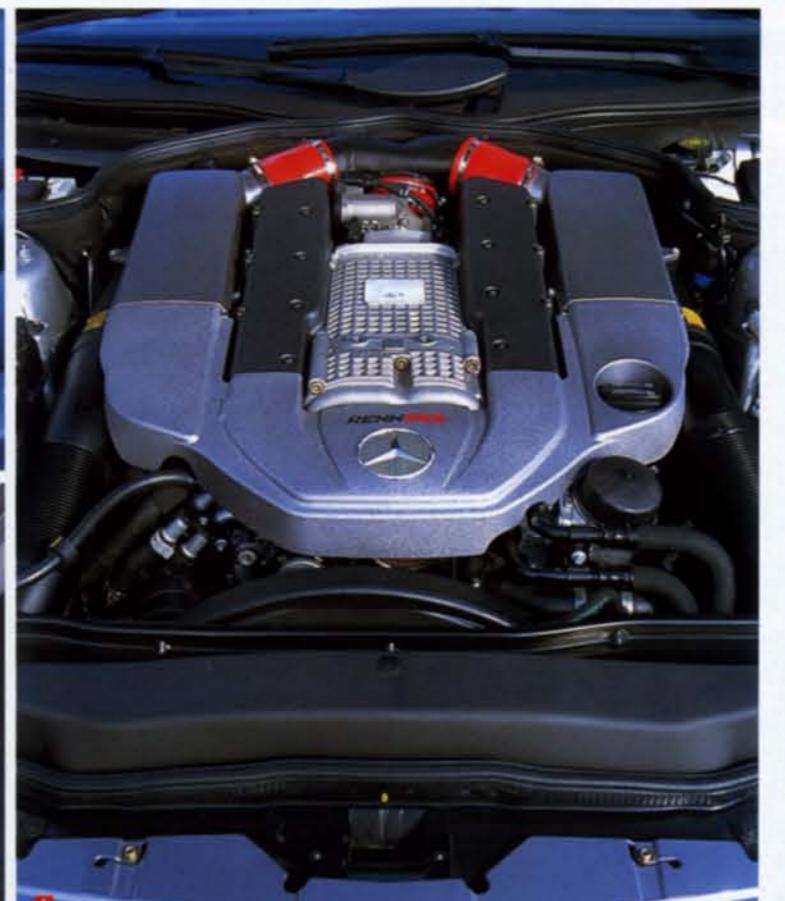
1 レンテックのチューニングを施されたV8スーパーチャージャー・ユニット。パフォーマンス・パッケージは1~3まで用意されているが、最大で575ps/2540rpm、83kgm/6100rpmのパワーとトルクを叩き出す。2 インテリアも趣に合わせて変更。特にセンターコンソールとステアリング一部にカーボンをあしらう。3 エキゾーストは左右2本出しだが、ここから発するサウンドは最高だ。4 ホイールは足下を引き締めるために鍛造を採用。これはレンテックオリジナルで巨大なサイズにも関わらず軽量で十分な強度を誇る。5 フロント8J×19 (1本1495ドル)、リヤ11J×19 (1本1795ドル)。極大サイズを履く。6 フロリダにショットを構えるレンテックはショールームナッシュテナンス工場を完備。ここからアメリカ全土にメルセデスのチューニングカーが出荷するのである。



Coming from
AMERICA



6
RENNTech-tuned SL-Class parked in front of a building with 'RENNTech' signage.



れるハイウェイで、そのボテンシャルを感じられるのはせいぜい160km/hまでの領域だ。もつとも、最高速がすべてのボテンシャルではないのは承知のとおりで、ランブウェイではSL55 AMGよりも増しているトルクを明確に感じることができるし、それによるドライビリティは低回転から自在に操ることのできる「速さ」を強く感じることができたのである。

さらにECUのセッティングによって、ABCサスペンションをわずかに低く車高を設定しているが、245/40ZR19と285/25ZR19という極太タイヤと19インチホイールを組み合わせていても、十分な柔軟性を持つものだ。レンテックはまずスタートティングボイントとして、ストップロックをSL500をAMG仕様へとチューニングすることからはじめている。2000年1月にSL500をベースに仕事開始。その後、幸いなことにいくつかのレベルでのチュ



ジエントルな外観から想像できない
驚異の加速フィールは「本物」だ



ルのホイールハウスでさまざまなものと干渉しない、容易に組合せられるものではない。しかしレンテックは、このホイールを日本の鍛造工場と直接やり取りを行ったため、専用設計が施されているのでベストマッチング。ホイールとなっている。鍛造は11J×19インチで、なんと9・45kgと軽量で十分な強度を誇る。当然のことながら、鍛造は高価で1本1795ドル、フロントの9J×19は1495ドルだ。鍛造ホイールのほぼ倍となる価格だが、SLの購入を考えているのなら迷わずSLのホイールを選ぶはずである。

さて、エクステリアはSL55AMGをベースとしているにもかかわらず、AMGのエアロパーツをつさない縦ついていない。理由は単純、レンテックの独自のキットはSL500をベースとして作っているため、フロントリップはSL500のバンパーと組合わせら

れているからだ。見ようによつてはやや悪趣味ともいえるリップスポイラーだが、フラットボトムを形成するに不可欠なデバイスとなつていて、フロントリップをつけたままでは、ドライビングが危険にならぬ。しかし、必要ないブリッピングやキックダウントリップをついてしまつてしまつてしまう。

住宅地では気がひけるほどの豪快なサウンドだが、取り締まりの厳しいアメリカではその回転域を試すことでの可欠なデバイスとなつていて、フロントリップをついてしまつてしまつてしまう。

実際に確認できる環境はアメリカでは存在しないが、0~96km/h加速はボルシェG T 2の領域である4・1秒、2tをたつ100kgしか切つてない重量級としては、驚くべきパフォーマンスを醸し出しているのである。このレンテックSL55Kは、まさに超ド級の2シーターオープンモデルといつても過言ではないのだ。

実際には、この車のパフォーマンスを発揮するには存在しないが、0~96km/h加速はボルシェG T 2の領域である4・1秒、2tをたつ100kgしか切つてない重量級としては、驚くべきパフォーマンスを醸し出しているのである。このレンテックSL55Kは、まさに超ド級の2シーターオープンモデルといつても過言ではないのだ。



レンテックCLKのプログラムは比較的のボリュームなものだが、リヤフェンダーはかなり張り出しているのも特徴。その他ハイリフトカムにバルブスプリングの強化、スーパーチャージャー・ブーリーの拡大、そしてECUの書き換え。PP1はECUのみ、PP2はカムまわりの変更で414ps、最終段階は450ps/3.8ℓエンジンのPP3仕様だ。

RENNTECH SL55K

甲高いV8サウンドが
もっとも刺激的!